

# 保育者の専門性を育てる実習指導へ向けて —実習事前事後指導の在り方を探る—

藤井 美津子  
Mitsuko FUJII

## 抄録:

教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。また、保育職を目指す学生にとって幼稚園教育実習は、将来の自分への強い動機付けを得る機会でもある。保育者を目指す学生、実習指導の中心となる幼稚園、学生指導を担う養成校それぞれの立場で充実した成果が得られるものでなければならない。そこで、本研究は、保育者養成校である本学で、保育者の専門性を育てる実習指導に向けて実習事前事後指導の在り方を探る目的で取り組んだ、模擬保育の実践と事後報告会の指導を報告する。模擬保育を実践した際の主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、そこから実習につなげ、学生が何を学び、どのような課題を持ったのか分析し、保育者を養成する上での指導や授業のあり方、事前事後指導の充実に向けての取り組みについて検討した。それが、卒業後の学生の保育者としての成長につなげられるような資料になればと考えた。

**キーワード:** 教育実習 模擬保育 振り返り 事前事後指導 自己評価 実習事後報告会

## 1. 【はじめに】

少子化や核家族における養育力の低下、待機児童の増加や子どもの貧困問題など、乳幼児を取り巻く社会状況は、多くの問題を抱えている。それに伴い、保育施設に求められる子育て支援の機能は多種多様化し、保育や教育の現場では、多様で高度な専門性がますます求められている。専門知識や技術の習得だけでなく、社会の動向を理解した上で、それぞれの子どもへの支援のあり方や保護者支援、さらに地域との連携も可能な人材が望まれている。また、学生自身も生活経験の不足や価値観の変化により、学校における学習や生活に対する姿勢や態度にも指導が必要となってきた。それゆえ、保育者養成校は、今まで以上に養成課程の重要性を認識し、学生の教育に力を尽くしていかなければならない。

保育者養成校に在籍している学生の多くが保育士資格や幼稚園教諭免許状の取得を目指し、必要単位を取得しながら実習を積み重ね、保育者として社会に巣立っていく。短期大学の場合は、2年間という限られた期間の中で専門職としての知識や技術を身に付けることが求められている。近年、子どもを取り巻く社会情勢の変化に伴い保育士不足が深刻な問題として取り上げられる一方で、保育者の質の向上も課題とされている。このような状況の中、学生たちは養成校を卒業し社会に巣立っていくこととなる。筆者は養成校の教員として、学生たちが2年間という限られた在学期間の間に保育における実践力を身に付け、在学中に自分自身の成長を実感し、更なる課題や目的をもって保育現場にて活躍してほしいという思いで指導にあたっている。そして、指導を行う中で、保育における実践力や自分自身の成長の実感、次なる課題を得る場として、実習が大きなチャンスでもあり分岐点であると感じている。

## 2. 【目的】

養成校における実習指導のプログラムは綿密かつ統計的に設計されており、質の高い保育士を養成するには、学外の実習に負うところは極めて大きい。

本学は、保育者養成校として幼稚園教諭2種免許状と保育士資格を取得するためのカリキュラムが組まれている。その中でも実習は、保育者の指導のもと、子どもたちと直接かかわり、子どもや保育について学べる貴重な機会である。特に

少子化の影響で、乳幼児とのかかわりは、実習が初めてという学生も少なくない。そうした中での実習は増々重要性を増し、本学でも実習がカリキュラムの中で重要な位置を占めている。実習終了後に、個々の学生たちは実習の成果を認識し、そこで自分自身が大きく育てられたと実感している。より実習効果を高めるためには、実習終了後に体験した学びを整理し、実習結果を自己点検・自己評価することで次への自己課題を明確化したりするなど、事後指導のあり方や、実習を援助する実習指導のあり方全般が重要になってくる。

また近年、学生の主体的な学びを促進するため、アクティブ・ラーニングが取り入れられてきている。実習の目的は、学内で学んだことを実習先で実践し、子どもの理解を深めるとともに、理論と実践を結び付けていくものである。つまり実習は、それ自体がアクティブ・ラーニングであり、実践現場を体験し、保育者を目指す学生の専門的な質を高めていくものである。

教職コアカリキュラムの幼児教育にかかわる内容には、「幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けること」および「模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を身に付けている」という目標が掲げられている。このことから、保育者養成においては机上の学習だけでなく模擬保育などの実践的な学びを通じて保育者の養成が求められ、その指導方法を模索すべく具体的な実践の積み重ねが必要である。先行研究においても、保育者養成校における模擬保育の実践に関して複数取り組まれている。筆者も(2017)「教育実習における自己評価と園評価から見る教育実習指導の検討」のなかで、自己評価と園評価との関係について考察し、客観的自己評価力の向上を目指して取り組んできた。中でも、模擬保育における自己評価と他者評価との比較が、実習後の学生による自己評価と園評価と非常に関連していることを明らかにした。これは保育者養成校における模擬保育が実践的な指導力のある保育者を養成するためのアクティブ・ラーニングとしても意義のある取り組みであることを示している。

そこで、本研究は、保育者養成校である本学で実施した模擬保育の実践と実習事後指導を報告する。模擬保育を実践した際の主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、そこから実習につなげ、学生が何を学び、どのような課題を持ったのかを分析し、保育者を養成する指導や授業のあり方および事前事後指導の充実に向けての取り組みについて報告する。

### 3. 【方法】

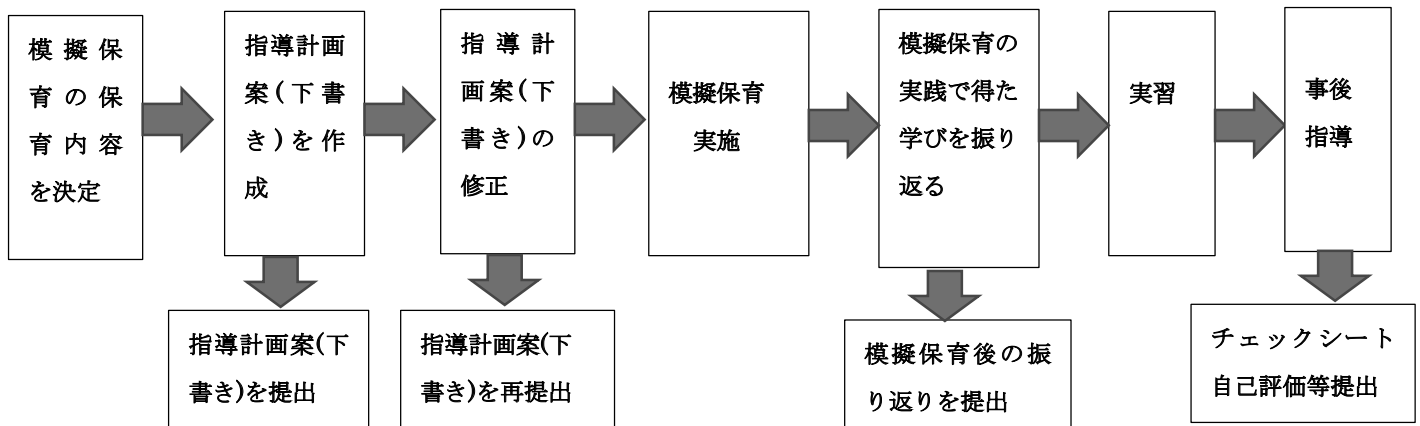
本学は、保育所での実習2回、保育所以外の福祉施設での実習1回、幼稚園実習1回の実習形態を持っている。また、小学校教諭免許と、幼稚園教諭免許を取得する場合、これも同様に各施設において実習を経験している。

教育実習の授業は、幼稚園教諭免許取得に関わる必修授業として1年後期から2年前期にわたって開講されている。上記の目的を踏まえ、保育実習Ⅰを経験した2年生29名が、3週間の幼稚園実習を前に取り組んだ16回～23回における授業と実習を終えた事後指導を研究対象とした。

- ① 指導内容は、教育実習に向けた各種手続きを実習ガイダンスで取り組み、その中で、実習生らしい態度や社会人としてのマナー、園訪問の際の服装や身だしなみ等について伝えている。また、実習中の心構えについて繰り返し伝え、目的意識を持って臨むように指導した。
- ② 指導計画案作成については、保育実習Ⅰも経験しており、当該科目での取り扱いだけでなく、保育内容など他の教科目においてもグループワークによる指導計画案作成の指導がなされている。当該科目では、具体的に教育実習での部分実習・責任実習を想定し、グループワークではなく1人で指導計画案を作成し模擬保育を実践する。学生にとっては自分で計画を立てて自分で実践を試みる初めての体験となる。
- ③ 模擬保育では、模擬保育を行う保育者役の学生が、担当教員の指導の下に指導計画案を作成し、子ども役の学生を相手に模擬保育を実践する。保育内容については、1回目を室内で取り組む制作内容に、2回目は身体を使った動的な遊びとした。指導案作成から模擬保育実践までの手順は【表1】の通りである。

- ④ 2 回の模擬保育の実施から得た課題を受け、今年度は「模擬保育を体験すること」にとどまらず模擬保育で学生が学び得たことを整理して、またクラスメイトからのフィードバックによる客観的な省察を得ることで、質を伴う省察のある模擬保育を実践する。それを実習でどのように生かしたか、事後指導において明らかにしていく。

指導計画案作成から模擬保育実践・実習・事後指導までの手順 【表 1】



#### 4. 【実践 模擬保育の概要】

今回の模擬保育の実践では、1 回目の模擬保育を室内で行う制作等とし、2 回目を園庭や遊戯室での身体を使った運動遊びや集団遊びと想定した。3つのグループに分け、それぞれに3歳・4歳・5歳担当とし、指導計画案はそれぞれの年齢に沿ったもので行った。

今回の模擬保育の実施については以下のように計画することを学生と共通理解した。

- ① 指導計画案の作成方法、清書までのプロセスは【表 1】のとおり従来の方とす。
- ② 保育者役の学生は導入からまとめまで、20分程度の模擬保育を計画すること。
- ③ 保育者役の学生は模擬保育終了後、模擬保育実践シートに自身の模擬保育を振り返り、自己評価及び反省点を記入すること。
- ④ 子ども役の学生は保育者役の立案した指導計画にて指定された年齢の子どもになりきって模擬保育に参加すること。
- ⑤ 子ども役の学生は模擬保育終了後、模擬保育観察シートに模擬保育を振り返り、評価及びコメントを記入すること。

第1回模擬保育 実践シート(1) 自己評価票 【表2】 氏名

指導案について ・提出期日は守れたか ・記入漏れはなかったか ・丁寧に書かれていたか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導案 合計 点	指導案についての考察
指導内容について ・活動しやすい導入であったか ・わかりやすい説明であったか ・言葉かけは適切であったか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導内容 合計 点	指導内容についての考察
指導者として ・はっきりと大きな声が出せていたか ・服装、言葉づかいは適切だったか ・てきぱきした動きだったか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導者 合計 点	指導者としての考察

1=努力が必要    2=あと少し    3=普通    4=おおむね達成できた    5=達成できた

第1回模擬保育 実践シート(2) 反省及び課題 【表3】 氏名

★保育内容について ・子どもたちの年齢・月齢に適した活動内容であったか ・子どもたちの興味や関心を引き出すための導入、内容であったか ・季節的な内容を取り入れ工夫があったか
★指導方法について ・分かりやすい説明ができていたか、活動の説明が適切であったか ・子どもたちへの声掛けは適切であったか、笑顔であったか ・教材の準備はしっかりできていたか

★計画・時間配分について
・想定していた時間内に終わることができたか
・時間配分は適切であったか
・指導案は期日を守りしっかり書かれていたか
★模擬保育後の話し合いで学んだこと・子ども役の客観評価を聞いて感じたことは何か (第1回模擬保育)
★前回の模擬保育の反省をどのように活かしたか、実習に取り入れたいことは何か (第2回模擬保育)

第1回模擬保育 観察シート(1) 【表4】 氏名

指導計画案について ・提出期日は守れていたか ・記入漏れはなかったか ・丁寧に書かれていたか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導案 合計 点	指導案についての考察
指導内容について ・活動しやすい導入であったか ・わかりやすい説明であったか ・言葉かけは適切であったか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導内容 合計 点	指導内容についての考察
指導者として ・はっきりと大きな声が出せていたか ・服装、言葉づかいは適切だったか ・てきぱきした動きで子どもたちに対応していたか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導者 合計 点	指導者としての考察
全体を通じたコメント			

1=努力が必要 2=あと少し 3=普通 4=おおむね達成できていた 5=達成できていた

【表 1】のように、学生は模擬保育にて取り扱う保育内容を決定した後、指導計画案を作成し、指導教員による添削指導を重ねて模擬保育を実施している。この流れは、実際に教育実習で責任実習に向けて担当保育者と実習生である学生との間で行なわれる指導計画案作成上の手順と考えられる。実際の実習場面に予想される手順に沿って、模擬保育に向けた指導を行うことで、学生は指導計画案を作成する際の流れや、実際に想定されるであろう指導計画案作成のペースや労力を擬似体験することができると思う。

また、模擬保育を行う学生が模擬保育を行うことで具体的に何を学び取るのか、実際の責任実習に向けた自身の課題を明確に整理するためにも、【表 2】の実践シート(1)に自己評価票を記入した上で、【表 3】の実践シート(2)に反省及び課題を整理させた。また、模擬保育の直後には子ども役の学生から実施した内容や指導方法について【表 3】の観察シートに基づき口頭でコメントするようにした。その内容は「指導計画案」については、「わかりやすく丁寧に書かれていたか」「記入漏れはなかった」等、また「指導内容」については、「活動しやすい導入であったか」「言葉かけ、説明の仕方」等、「指導者として」は、「話し方や声の大きさ」「子どもたちへの対応」等といったものである。

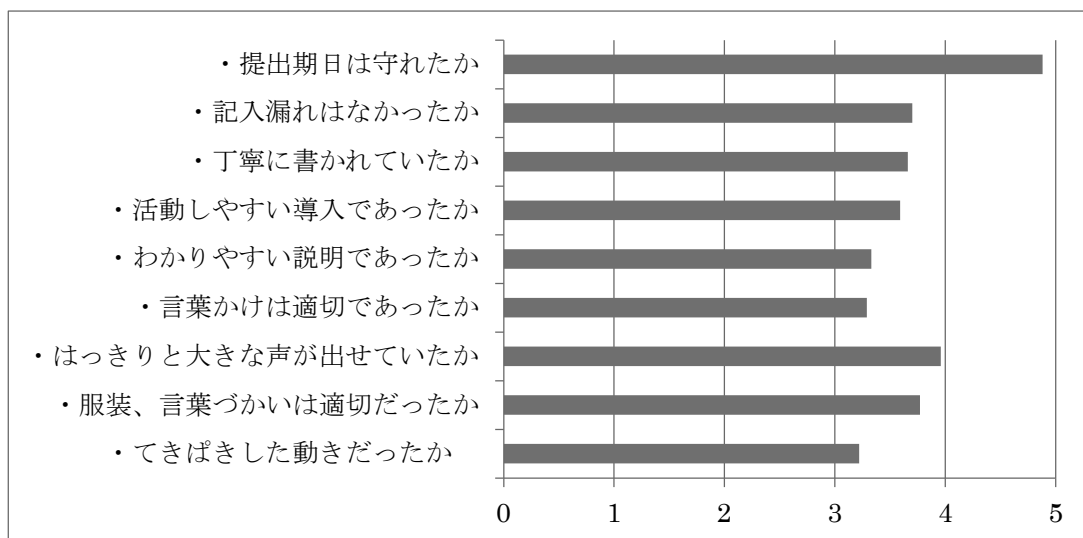
## 5. 【結果】

模擬保育終了後に記入した実践シート(1)(2)及び観察シートへの記載内容をもとに出した、保育者役の学生の自己評価の平均は【表 5】の通りであった。ほとんどの学生が、提出期日を守れ、服装や言葉づかいも現場の保育者を意識しながら取り組み高得点であったが、分かりやすい説明や言葉かけは課題が残る結果となった手。また、5段階評価では一部の学生を除き、子ども役の学生が評価した他者評価が、すべての項目において保育者役の学生の自己評価を上回った。

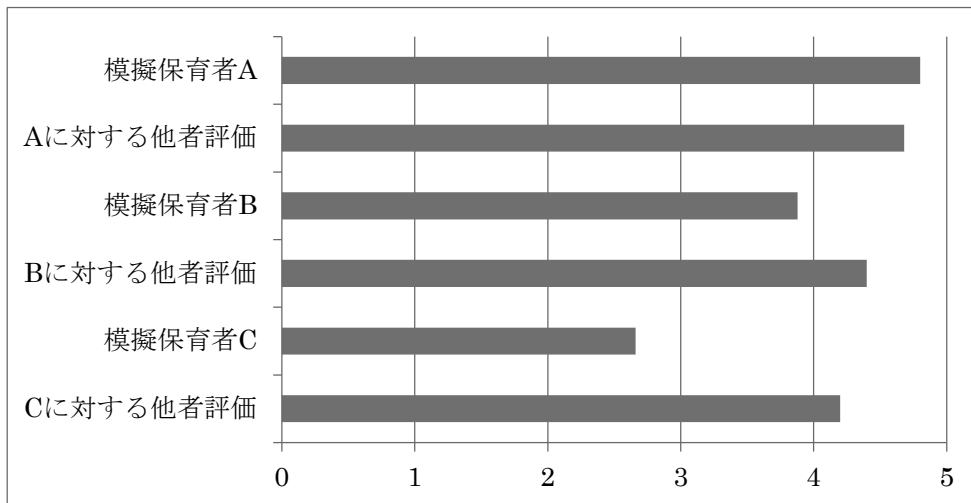
【表 6】では、自己評価成績上位部 A の学生と、A の模擬保育後の観察シートによる他者評価の平均、自己評価成績中位部 B の学生と、B の模擬保育後の観察シートによる他者評価の平均、自己評価下位部 C の学生と、C の模擬保育後の観察シートによる他者評価の平均を比較してみた。

【表 7】では、保育者役の学生の反省や課題、子ども役の客観評価を聞いて学んだことなどの記載内容を、先の A・B・C の学生を参考にまとめた。

模擬保育者の 5 段階自己評価平均点 【表 5】



模擬保育者 A・B・C による自己評価と他者評価 【表 6】



第 1 回模擬保育 実践シート(2) 反省及び課題 【表 7】 模擬保育者 A・B・C

<p>★保育内容について (抜粋)</p> <p>●子どもたちの年齢・月齢に適した活動内容であったか</p> <p>A・・・少し難しい作業(芯に袋つけ)の所は5歳児同士共同作業にしてもよかった。</p> <p>B・・・貼る、折る、描くという手法を使い、比較的簡単に製作できるものにした。</p> <p>C・・・5歳児にしては天の川を貼っていくという作業が簡単すぎた内容だった。</p>
<p>●子どもたちの興味や関心を引き出すための導入、内容であったか</p> <p>A・・・図鑑などを使って宇宙をイメージしやすくし、制作から遊びにつながるようにした。</p> <p>B・・・6月の雨降りから傘の制作は子どもにとっても身近に感じ興味を持てる内容だった。</p> <p>C・・・見本をもっと丁寧に作ったら興味を持って取り組めた内容だったのではないかと感じた。</p>
<p>●季節的な内容を取り入れ工夫があったか</p> <p>A・・・七夕や星など興味を持てる時期なので季節感が出ていると思った。</p> <p>B・・・6月の梅雨の季節を意識して、傘を使った制作を行った。</p> <p>C・・・七夕を先取って季節的な内容であったが、工夫が足りなかった。</p>
<p>★指導方法について (抜粋)</p> <p>●分かりやすい説明ができていたか、活動の説明が適切であったか</p> <p>A・・・出来るだけ分かりやすい言葉かけを心掛けたが時間を気にしすぎて早口だった。</p> <p>B・・・貼る部分を見本で色をかえて示したり段階ごとにその都度説明を行った。</p> <p>C・・・説明がまとまっていなかったので事前に流れと一緒に説明を考えておくとよかった。</p>
<p>●子どもたちへの声掛けは適切であったか、笑顔であったか</p> <p>A・・・意識して笑顔で言葉かけをしたが、メリハリも必要だと感じた。</p> <p>B・・・一人ひとりの個性を受け止めながら作品について笑顔で声をかけることができた。</p> <p>C・・・笑顔で取り組めたが学生相手なので子どもに話すように言葉かけができなかった。</p>

<p>●教材の準備はしっかりできていたか</p> <p>A・・・しっかり準備することができた。</p> <p>B・・・人数分とプラス予備を準備した。糊を使うので新聞紙とタオルを用意した。</p> <p>C・・・イメージしやすい材料やゴミをまとめる袋や新聞紙を用意しておくとうよかった。</p>
<p>★計画・時間配分について（抜粋）</p>
<p>●想定していた時間内に終わることができたか</p> <p>A・・・想定していた時間内で終わることができた。</p> <p>B・・・時間内に終わることができたが、時間配分は指導案通りにいかなかった。</p> <p>C・・・少し時間が余ってしまったのでその間どうするか考えておくべきだった。</p>
<p>●時間配分は適切であったか</p> <p>A・・・もう少し飾り付けに時間をかけて楽しめばよかった。</p> <p>B・・・説明の時間をたっぷり設定していたが子どもの様子をみて自由に描く時間をとった。</p> <p>C・・・時間が余った時にどうするか考えていなかったなので子どもたちに待たせてしまった。</p>
<p>●指導案は期日を守りしっかり書かれていたか</p> <p>A・・・期日を守りしっかり書けたと思う。</p> <p>B・・・期日を守り自分の行動を細かく記入し対応できるように準備した。</p> <p>C・・・期日を守って書くことはできたがもっと見直したりしたら良かったと反省した。</p>
<p>★模擬保育後の話し合いで学んだこと・子ども役の客観評価を聞いて感じたことは何か  (第1回模擬保育) (抜粋)</p> <p>A・・・指導案に個数など書かれていたのでわかりやすかったとか、七夕のイメージをもう少し具体的にしておくとう良かったなど言ってもらって参考になった。自分で思っている以上に良かった点などを伝えてもらい、少し自信になった。自分で出した反省点などを改善して今後につなげていきたいと思う。</p> <p>B・・・3歳児という事で貼ったり折ったりすることに重きを置いたので、補助的な部分が多かったため、もう少し自由に子どもたちが制作できるようにした方がよかったという意見をもらい、そのような発想はなかったのととても参考になった。次回の指導案作成の時に役立てたい。</p> <p>C・・・制作では、切り込みを入れる線を引いておくとう良かった。切り取ったごみを入れる入れ物もあった方がよいのでは等、参考になる意見を言ってもらった。又他の人たちの模擬保育を見て、ペーパサートなどを使い導入を考え興味を持てる準備をしておくとう良いと思った。次回に活かしていきたい。</p>

## 6. 【考察】

坂元(2015)は、保育者養成校の学生が教育実習の設定保育から学びえたこととして、臨機応変な対応力の他、設定保育の計画・準備の重要性を挙げている。実習先で学ぶ前に、授業における模擬保育でどれほどの保育の省察の視点を学生に育てさせることができるかが課題であるとし、保育者養成側として注視すべきものであると述べている。模擬保育に臨んだ学生の事後レポートを分析する中で、模擬保育を行った学生がクラスメイトからのコメントに喜びを感じていること、



ピアレビューとして同年代の学生から褒められることと、改善点を指摘されることを学生等が受け入れていたことを明らかにした。

このことから、保育者役の学生が学び得ることとして、話し方や説明、子どもたちへの対応に限らず指導計画に関わる内容を含めて整理し、クラスメイトのコメントとしてそれらの要素を踏まえてフィードバックすることで、質を伴う省察のある模擬保育が実践できたのではないかと考える。また、模擬保育に参加する子ども役のクラスメイトにとっても、客観的に模擬保育を評価する機会となった。

【表 5】は、模擬保育を行った学生の自己評価平均点であるが、各カテゴリーにおいて保育者役の学生の省察と子ども役の学生による評価ポイント、改善ポイントが明確になった。また、指導案について、記入漏れや丁寧さ、導入の仕方や説明、言葉かけ、子どもへの対応などは、保育者役の学生の省察と子ども役の学生による評価とが一致していた。両者の評価が一致することで、保育者役の学生は自身の評価について、自身で感じていた達成感を裏付ける客観的な評価として明確に自信につなげていくことができたと考える。

また、【表 6】のように自己評価成績上位部 A・中位部 B・下位部 C に該当する学生の自己評価と、模擬保育に子ども役で参加した学生の客観的な評価(他者評価)の平均を比較すると、表のように中位部・下位部に該当する学生の自己評価より、他者評価がかなり上回っていることがわかる。【表 7】における実践シート(2) 反省及び課題の中でも、模擬保育の反省を細かく書き入れ、自己評価成績上位部 A・中位部 B・下位部 C の学生の特徴をしっかりと表していた。また、クラスメイトからの口頭によるコメントは、素直に受け入れ自分の事として捉えていた。課題についても「課題だと思う」点ではなく、客観的な視点から明確に「自身の課題」として捉えやすくなり、模擬保育の本来の目的である自己の保育実践力の省察が主観的な評価と客観的な評価の双方により深められたと考えられる。模擬保育においては、1 回目を室内の制作に、2 回目を戸外や遊戯室を使った集団遊びにしたため、1 回目の反省を生かして 2 回目の模擬保育は指導案の中に、更に詳細に保育者の援助を書き入りていた。

実践した模擬保育の「ふりかえり」が個人のふりかえりだけでなく、他者との情報共有により、自己だけでは気づかない点にも目を向ける事ができるとともに、他者からの見方を知ることにより深いものになると感じる。本稿において保育者役の学生が今回の実践から得た「ふりかえり」もまた他者からの見方を知る機会として有意義であったと考える。

## 7. 【実習の振り返り】

教育実習終了後に振り返りを行い、実習報告会にて他の学生に実習内容を報告したり、他の学生の実習内容を聴講することで、新たな気づきが生まれたり、学びが深まることが考えられる。このような期待をし、実習報告会を企画した。

### ○実習報告会における効果

- ① 実習の振り返りの促進・・・報告内容をまとめる中で、再度チェックシートや保育日誌、指導案に目を通すことで、実習で実践した保育内容の振り返りが促進されることを期待した。
- ② 実習内容に対する新たな視点の獲得・・・報告内容をまとめる中で、実習中や実習直後には気づかなかった新たな視点を獲得することを期待した。
- ③ 他の学生の報告を聴講することによる、新たな知識・視点の獲得・・・他の学生の実習への取り組みやいただいたアドバイスを聴講することで、新たな知識・視点を獲得することを期待した。
- ④ 自身の次の目標・課題の明確化・・・上記①～③を通して、保育実習Ⅱを見通して、自身の次の目標・課題が明確になることを期待した。

- ⑤ 実習報告による自信向上・・・自身の実習内容を報告する中で、他の実習生からの質問に答えたり、実習内容に対して称賛を得たりすることで、自信向上に繋がることを期待した。
- ⑥ 他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上・・・他の学生の実習内容を聴講することにより、それが刺激となり意欲が向上することを期待した。
- ⑦ 報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用・・・報告会で得た視点や知識が自身の保育に応用されることを期待した。

**教育実習 事前・事後チェックシート**

**1 【教育実習にむけての手続き・事前打ち合わせ】**

**① 実習先との事前打ち合わせオリエンテーション訪問について 【表 8】**

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①実習生に電話を入れ、日程を調整し打ち合わせ日程を決定した。	26	89.6	3	10.4	0	0
②オリエンテーションにおいて聞くべき箇所はしっかり聞くことができた。	17	58.6	12	41.4	0	0
③身だしなみを整え(髪の色ピアス等)実習に臨む姿勢を示せた。	29	100	0	0	0	0

**② 事前提出書類等について**

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①オリエンテーション報告書はその都度提出できた。	21	72.4	6	20.6	2	7
②腸内細菌検査提出は期限を守った。	25	86.2	1	3.4	3	10.4
③訪問担当教員へ挨拶をしっかりし、訪問のお願いをした。	27	93.1	2	6.9	0	0

### ③ 実習依頼・打ち合わせについて

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①15日間の実習計画(配当クラス・勤務形態・行事・予定)の確認ができた。	24	82.7	5	17.3	0	0
②部分実習・責任実習のお願いと相談	19	65.5	10	34.5	0	0
③実習までにすべきことの確認(楽譜等)	23	79.3	5	17.2	1	3.5
④服装・持参物・昼食(給食費)の確認	26	89.7	3	10.3	0	0
⑤通勤手段の確認	5	17.2	18	62	6	20.6

## 2 【実習内容・部分実習・責任実習に関する準備

### ① 教育実習記録(実習日誌)について

【表 9】

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①実習に臨むにあたって、実習の課題を明確にし、実習前に書き上げた	23	79.3	6	20.7	0	0
②実習園の概要について分かる範囲で事前に調べて記入した	15	21.7	13	44.8	1	3.5
③実習日誌は毎日記入し、朝提出することができた。	22	75.8	6	20.7	1	3.5
④実習を振り返り、感謝の思いを込めて「実習を顧みて」を記入できた。	18	62	10	34.5	1	3.5
⑤誤字脱字に気をつけて書き 見直した。	5	17.3	18	62	6	20.7

### ② 部分実習について

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①園の指定通り保育指導案を事前に作成し、指導を仰ぐことができた。	16	55.1	13	44.9	0	0
②いくつかの案を用意し、担任の先生と相談することができた。	9	31.1	15	21.7	5	17.2
③部分実習で使用する材料や用具等を事前に準備することができた。	19	65.5	10	34.5	0	0
④部分実習は大体計画通りスムーズに進行した。	7	24.1	14	48.3	8	27.6
⑤反省や失敗を次に活かせるように記録し、次の案を計画していった。	13	44.8	14	48.3	2	6.9

### ③ 責任実習について

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①責任実習に向かい、指導案の作成を早めた。	12	41.3	12	41.3	5	17.4
②保育内容について、担任の先生と相談し進めることができた。	14	48.3	14	48.3	1	3.4
③責任実習で使用する材料や用具等を事前に準備できた。	18	62.1	9	31.1	2	6.8
④責任実習は大体計画通りスムーズに進行した。	6	20.6	14	48.3	9	31.1
⑤失敗や反省を謙虚に受け止め、自分の学びにつなげていった。	24	82.7	5	17.3	0	0

### ④ 全体的な仕事について

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①室内環境の準備や掃除を積極的に行った。	25	86.2	4	13.8	0	0
②挨拶は全ての職員・子どもたち・保護者さんたちに自分から声をかけた。	11	38	17	58.6	1	3.4
③少々のことであっても顔に出さず笑顔を絶やさぬよう努力した。	18	62.1	10	34.5	1	3.4
④担任の先生方と積極的にコミュニケーションをとり連携していった。	14	48.3	12	41.3	3	10.4

### 教育実習(幼稚園)自己評価

#### \*姿勢・資質

【表 10】

自己評価項目 区分	3 (よくできた)		2 (できた)		1 (できなかった)	
	人数	%	人数	%	人数	%
①意欲・積極性	8	27.6	20	69	1	3.4
②勤務態度	13	44.8	15	51.8	1	3.4
③職員との関係・協調性	10	34.5	17	58.6	2	6.9
④明朗性	11	38	17	58.6	1	3.4
⑤責任感	10	34.5	18	62.1	1	3.4
⑥実習課題に対する取り組み	7	24.2	21	72.4	1	3.4

**\* 知識・技能**

⑦施設の理解	8	27.6	21	72.4	0	0
⑧一日の流れの理解	10	43.5	13	56.5	0	0
⑨子どもの発達と理解	11	38	16	55.1	2	6.9
⑩保育計画・指導計画の理解と実施	6	20.7	21	72.4	2	6.9
⑪保育技術の習得	7	24.1	20	69	2	6.9
⑫チームワークの理解	13	44.8	14	48.3	2	6.9
⑬家族・地域社会との連携の理解	13	44.8	16	55.2	0	0
⑭子どもとのかかわり	13	44.8	16	55.2	0	0
⑮職業倫理の理解	7	24.1	18	62.1	4	13.8
⑯健康・安全への配慮	10	43.5	17	58.6	2	6.9
⑰実習記録	6	20.7	19	65.5	4	13.8

**「実習フォローアップ」 3週間の教育実習を終えて**

**体験を言語化して伝達する力を付けよう! 3分間スピーチ 【表11】**

・今回の実習で学んだこと(楽しかったこと・うれしかったこと・印象的だったことも含めて) **抜粋**

- A・印象に残ったのは子どもたちに対する先生の言葉がけで、子どもたち自身が自分で考え自分で行動できるように声を掛けていた。又自分でやりたい遊びを思う存分楽しめるように環境設定を含め教師と一緒に関わることで、遊びが広がっていった。
- B・先生の子どもの主体とする関わりが印象的だった。子ども自身が今何をすべきか気付いたり、自分の思いを伝えたり、子ども同士で意見を伝え合ったりする姿があった。先生は子どもの遊びを見守ったり一緒にしたりする中で子どもが疑問に感じたことや思いを拾って受け止められていた。
- C・子どもと1対1で言葉掛けをする時と、全体の前に立った時に話をする難しさを感じた。子どもたちの降園後に生き物の世話や次の活動の準備などこまめにする事も保育者の大事な仕事であることを学んだ。給食の時偏食のある子が「先生見てて」と食べてくれたときすごく喜びを感じた。

・部分実習・責任実習・指導案・日誌について **抜粋**

- A・今回毎日のように部分実習があった。指導案についてはもう少し子どもの姿を予測する必要があると感じ、今後の課題として次回の保育実習に備えたい。日誌の書き方については、全体をしっかりと捉えて書く日や遊び中心で書く日など分けて記入することで、全体では見えてこなかった部分が見えたり細かな部分まで把握することができた。
- B・先生にきちんと子どもの姿を捉えて、今の子どもたちの興味関心を惹きつけるような活動ができているという言葉を受けて、そこが今の自分にできる最適な事かなと感じた。指導案を基に実際にやってみる中で、上手いかなかった点を次にどう反映していくかが課題であると思った。

C・前回の保育実習Ⅰと比べると大きな声でゆっくりと絵本や紙芝居を読むことができ、読み終わった後の声掛けもできるようになってきた。ピアノも途中で止まってしまう事があったが、後半は声掛けをしながら弾くことができた。

#### 模擬保育をどのように実習で活かしたか 抜粋

A・部分実習が多く、絵本や手遊びだけでは足りず模擬保育で行った制作をしてみた。制作活動では年齢に合ったものと思っ  
ていても、思ったより子どもたちには難しかった。臨機応変に柔軟に対応することが大切だと思った。

B・模擬保育でしていた〇〇さんの新聞紙玉入れを子ども役になって参加した時夢中になって遊んだので、それを指定実習  
でやってみた。1回戦2回戦と遊び方を変えることを取り入れ、遊びを工夫した。

C・模擬保育の時の反省をいかし、子どもたちの前で分かりやすく大きな折り紙を使うようにし、模擬保育でアドバイスを  
もらった言葉かけを実践した。

## 8. 【結果と考察】

実習報告会后、自由記述による実習報告会の効果検証を行なった。

### ①「実習の振り返りの促進」 学生の自由記述より抜粋

- ・発表をするにあたって、日誌を読み直したり、どんなことをしたか考えたりして、改めて実習の感想や反省点を振り返ることができた。
- ・報告があることで日誌を振り返り、指導の先生の言葉を読みなおすことで改めて丁寧な指導をしていただいたことに感謝した。
- ・自分の言葉で実習の内容を伝えることで3分間に何を話そうか、真剣に実習のことを振り返り何を学んだのか考えた。

### ②「実習内容に対する新たな視点の獲得」

- ・実習中では気づけなかったことが、落ち着いて読んでみると新たな視点で見られるようになった。
- ・担任の先生に言われたことや、コメントに書いて頂いたことが、その時はよくわからなかったが振り返ることで納得して受け入れられた。

### ③「他の学生の報告を聴講することで、新たな知識・視点の獲得」

- ・他の人たちの実習の様子を聞くことで、自分も同じような事があったが自分とは違った視点で捉えていてとても勉強になった。
- ・他の人たちの反省点や課題を聞くことで、自分に必要なことや参考にすべきことがわかってよかった。

### ④「自分自身の次の目標・課題の明確化」

- ・自分の実習を改めて振り返ることで反省すべきところ、これからの課題も明確になった。
- ・報告をしてみて自分の課題にしっかり向き合い自分を深く見つめなおすことができ、課題も明確になった。

### ⑤「実習報告による自信向上」

- ・自分の思いや経験したことを言語化することで、実習での振り返りを自信につなげられた。
- ・他の人のスピーチを聞いて自分も納得したり、共感することで自分の保育に対して少し自信が持てるようになった。

### ⑥「他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上」

- ・他の人たちの実習での頑張る様子を聞くことで、同じ夢をもって頑張っている人たちがいることが心強かった。
- ・他の人の報告を聞くことで、大変なのは自分ひとりじゃないんだ、みんな頑張っているから私ももっと頑張らなければという気持ちになった。

### ⑦「報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用」

- ・他の人の発表から、参考になる保育の内容や材料の使い方などあったので、次の実習の時には私も是非やってみたい。
- ・報告会で学んだことや参考になったことを、今後就職してから自分が保育をする時に取り入れていきたい。

本研究では、実習報告会のねらについてその効果検証を行い、上記のように期待していた効果がみられた。

【表 8】のように、実習に向けての手続きや事前打ち合わせ等について再び振り返ることで、次回の保育実習Ⅱにおけるオリエンテーションについて自分の課題をもって訪問することができるであろう。

【表 9】においては、1 実習記録について 2 部分実習について 3 責任実習について 4 全体的な仕事について 細かく評価項目をあげ、3 段階で自己評価をさせた。1 実習記録については、大体の学生が毎日頑張って日記の記録をしているが、⑤のように誤字脱字に気をつけて書き見直すまでは至っていない。ゆとりなく慌ただしい生活が予想される。2 部分実習については、ほとんどの学生が指導案を事前に作成し指導を仰ぐことができていた。また、材料や用具の事前準備もしっかりできていた。これらは模擬保育での経験が大きく活かされていたと感じる。反面、担任の先生との相談では、何人かができなかつたと答えており、コミュニケーション力の課題を感じた。3 責任実習については、④において大体計画通りスムーズに進行したの項目で、できなかつたが 3 割ほど占めている。これについては、事前の授業の中や模擬保育においても、失敗することは大切な経験であること、原因をしっかりと説明してそれを次に繋ぐようにしていくことと指導している。⑤の失敗や反省を謙虚に受け止め、自分の学びにつなげていったの項目で、ほとんどの学生が「よくできた」と答えていることは喜ばしい。4 全体的な仕事については、室内の掃除を積極的に行なうことや、挨拶や笑顔等高い割合でできていたが、やはり担任の先生との積極的なコミュニケーションについては課題が残った。

【表 10】においては、姿勢と資質、知識と技能の項目に分け自己評価していった。これは実習園評価と同じ項目で、園評価と自己評価を比較してみることで客観的に自身を見直してみる機会とした。実習園によって評価基準が異なるため、園評価と自己評価の関係は正確とは言えないが、自分の自己評価の甘さに気づいたり、あらたに課題を見つける学生もいた。

以上のようなチェックシートや自己評価を終えて、報告会における 3 分間スピーチを考えた。【表 11】では、先の模擬保育における自己評価成績上位部 A・中位部 B・下位部 C の学生の記録の一部を抜粋して記載した。担任の先生の言葉がけからしっかり学んで自分のものにしていたり、全体を見る目に気づき日記の書き方を自分なりに工夫する学生もいたが、目の前の子どもとの関わりに精一杯の学生もいて、ここでもそれぞれの学生の特徴が表れていた。園からの評価は 3 人ともに優秀で、それぞれがこの教育実習を通して大きな力や自信をつけたことがわかる。

報告会にてスピーチしたことで、これまでの実習の集大成として自分自身の実習内容を報告することや他の学生の実習内容を聴講することで、自分の実習内容を振り返り、新たな知識・視点を獲得したことに繋がった。今後社会人となり、保育者として成長するため、継続的な自己の向上を促すことに繋がることを期待される。

## 9. 【まとめ】

本稿では、保育者養成校である本学で実施した模擬保育と実習事後報告会の実践を報告する。模擬保育を実践した際の主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理した。模擬保育という具体的な指導場面を想定して学生が主体的に保育を構想し、模擬保育の実践について客観的な視点で振り返ることで自身の保育の改善に目を向けた。これは文部科学省(2017)の教職課程コアカリキュラムの幼児教育に関わる内容である「幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けること」「模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている」という目標に一步近づくことができたと考える。

模擬保育において学生が子ども役を行うことで、子どもの発達状況を理解しておくことの重要性と自らがそれを理解していないことへの気づき、子どもの視点や立場からの保育者の言動や保育環境の理解が促される。子ども役になった学生から改善点として、保育者の言動や環境設定などに関するコメントから、子ども役の視点から得た気づきもまた有意義な

学びが含まれていたと考える。

実習事後報告会では、様々なチェックシートや自己評価票にて振り返ることで、新たな知識・視点を獲得したことに繋がった。「自己評価をかなり高くつけるタイプ」と「自己評価をかなり低くつけるタイプ」では、全く別の特性や問題点を持っていると、【表 8】～【表 11】の結果を見ると読み取ることができる。自己評価をかなり高くつけるタイプの学生には、「自分はできている」と判断しているわけであるから、現場評価とのズレの原因である「できていないこと」「できなかったこと」に気づくためにどのような教育方法が有効であるかを検討しなければならない。また、自己評価をかなり低くつけるタイプの学生には、実際は現場から良い評価を得ているにもかかわらず、自分では「できていない」「できなかった」と判断しているわけだから、そのような学生には、具体的な課題を見つけ一生懸命取り組むように指導する以前の問題として、自己効力感を高められるような働きかけが必要であると思われる。

実習指導に限らず、多様な学生に対応した丁寧な指導が大学教育において求められている。本学のように少人数体制による指導というような方法の提示も良くなされているが、学生の数を少なくすれば教育の質が向上するわけではなく、教育効果を高めるためには多様な学生のタイプを分析し、それに合った教育方法を準備する必要があるだろう。それは、教育実習の指導だけに適用するものではなく、その他の指導においても活用できるのではないかと考える。また、実習指導体制やカリキュラムの充実と連動させて検討する必要もある。さらに、実習および実習指導は養成校だけで実施できるものではない。更に効果的な教育方法の検討過程において、現場である様々な施設や園との協働を実現させていくことが今後の課題である。

藤井美津子 子ども学科准教授・幼児教育

#### 【引用文献・参考文献】

- 1) 文部科学省(2017) 教職課程コアカリキュラム 「保育内容の指導法と保育の構想」
- 2) 藤井美津子(2017)「教育実習における自己評価と園評価から見る教育実習指導の検討」滋賀文教短期大学紀要 第20号
- 3) 中西理恵 大森雅人他(2010)「実習の効果を高める教育方法の研究 保育所実習における学生の自己評価と現場評価の検討から」 相愛大学人間発達学研究
- 4) 清水 健(2019) 「保育者養成における学生の主体的な学びにつながる模擬保育の実践」 帝京学園短期大学紀要 第21号
- 5) 井上聖子(2019) 「保育実習における学びについて」 帝京学園短期大学紀要 第21号
- 6) 川村めぐみ(2019) 「保育者養成校における実践的指導力の検討」 帝京学園短期大学 第21号
- 7) 高木悠哉(2018) 「保育者養成課程の実習指導に求められる課題に対する一考察」 奈良学園大学人間教育学部
- 8) 久松尚美、小澤拓大(2018) 「保育実習後の実習報告会が学生の成長に及ぼす影響」 宮崎学園短期大学部紀要 10号
- 9) 久松尚美、東真美子、小澤拓大(2019) 「保育実習準備の充実にむけた取り組み」 宮崎学園短期大学部紀要 11号
- 10) 坂本真由美(2015)「模擬保育を通じた自己省察の試み」中村学園大学短期大学部研究紀要 47号